

特定非営利活動法人 緑地雑草科学研究所 2024年3月発行

ニュースレター 13号

目次

活動報告	1
所属団体紹介	1
編集後記	3



顔を出すつくし(スギナ) (2024.3 京都)

活動報告

令和6年度総会についてのお知らせ

令和6年度の総会につきましては、3月29日に書面表決にて実施し、全議案が可決承認となりました。会員の皆様におかれましては、総会成立にご協力いただき誠にありがとうございました。

さて、近年は控えめになってしまっていた当研究所の活動も、昨年は雑草インストラクターによる荒廃農地の植生調査を行うなど、新たな取り組みの実施も行いました。今後も、オンライン講演会などのこれまでの活動に加え、各事業が連携し

た、新たな取り組みも計画しています。また、ニュースレター等を通じより活発に情報発信に努めてきたいと存じますので、皆様のご参加、ご参画いただけますよう、よろしくお願いいたします。

なお、過去の活動については当法人のウェブサイト上の事業活動をご覧ください。ニュースレターのバックナンバーも掲載しております。

<https://www.bousou-ken.org/action.html#newsletter>

事務局長 佐治健介

会員投稿記事

所属団体紹介

ゾイシアンジャパン株式会社 長沼和夫

「芝生専門」と称しております弊社の事業には、次の3本の柱があります。

1. 芝生造成機械化技術の開発と施工
2. 芝生品種の開発と生産販売
3. 芝生の管理

弊社は平成元年に宮池誠文によって設立されました。最近上梓されました伊藤幹二・伊藤操子両先生の「列島ゴルフ場の科学」で誠文の事業の一部を紹介していただいております。設立当初はゴルフ場建設の盛んな頃で、芝の入手は困難を極め、芝の必要量を確保できればゴルフ場の完成は成ったも同然という時代でした。誠文はノシバなどの切り芝をほぐして、それを芝苗として二枚重ねの木綿ネットの間に挟み、これを床土の上に広げて薄く目土をかけ、後は適度な灌水と施肥・刈り込みを行うことによって約4ヶ月で芝生に完成することを考案しました。貴重な元芝を数倍から10倍の面積に広げることができるので、十分な芝生入手が困難な当時はまるで手品のような芝生造成方法でした。製品のネットはロールになっていて、冗談好きの本人は、これを地面にゴローンと転がすから、「ゴローン」だと言っておりました。英語表記をGO-LAWNとしましたので現在ではゴローンと呼んでおります。この工法を用いて数十のゴルフ場が造成されました。ゴローンは海外からも注目され、米国、マレーシア、韓国などでも商業化されています。

その後、芝苗を床土に直接機械で植え付けるM-Way工法や、すり切れた芝生に溝を切って芝苗を差し込む、M-Way工法などの、芝生造成の機械化工法を考案しています。

誠文は旅行好きでしたので日本各地を車で回り、その途上でノシバを採取しておりました。後に、友人であり、株式会社ニチノー緑化の副社長を勤められた矢野文雄氏の採取したものと併せて、社

内の一角に400系統近くのノシバを植えてM&Yコレクションと称しておりました。ノシバは6月頃になると出穂して、その穂が黒々としたアントシアニンで汚らしくなり、葉は養分を奪われて黄色くみずばらしくなります。ところがある一角の系統だけが、その時期にも出穂せず鮮やかな緑色を保っており、しかも草丈が低く、葉幅が狭く、緻密という特性を持っていました。後にこの系統を「ひめの」として品種登録しました。刈り込みが少なくすみ、手間がかからないなどが好評で、屋上緑化・多目的広場・野球場の外野・幼稚園の園庭・小学校の校庭などで広く使われています。



出穂期のM&Yコレクション 手前の区画がひめの

このほかに塩性植物のサワズメノヒエをもとに作出された耐塩性が強いシーショアパスパラム(あも青)を米国より導入し、擦切れ耐性が強いティフトン419の純正品種や日陰に強いシェードII(セントオーガスタングラス)など、様々なストレス環境に対応可能な芝生をそろえています。

芝生の管理は、関西地方を中心に万博記念公園や鶴見緑地などの公園緑地、陸上競技場やサッカー場などのスポーツターフの年間管理を行っています。

本会には、芝草学会の常連だった誠文が伊藤先生に誘っていただいて2010年に加わり、その後弊社も賛助会員となりました。雑草は芝生の大敵で、除草剤の一種の土壌処理剤(発芽前処理剤)を上手

に使用してこれを出さなくする、あるいは発生してしまっただ雑草を茎葉処理剤を使ってうまく処理することは弊社の重要な業務です。ノシバやコウライシバなどへの除草剤利用技術はほぼ確立されていますが、これを海外から導入された新たな芝種に無造作に適用することはできません。また、除草剤耐性の雑草の出現や、防除困難な雑草の海

外からの侵入など、新たな対応が迫られる事態も次々と発生しております。この会には雑草に関する様々な分野の専門家が参加しておられます。会員の皆様のお知恵をお借りしながら、これらの雑草問題に対処し、芝生文化の充実に永く係わって参りたいと願っております。

 **編集後記・募集** 

当 NPO の理事（4月1日からは監事）でもある長村智司氏が、第 32 回（2024 年）の松下幸之助花の万博記念賞・松下正幸園芸賞を受賞されました。松下幸之助花の万博記念賞は、「自然と人間との共生」という花の万博の基本理念の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰するもので、長村氏の鉢物培養土の軽量化、および市民活動による花・みどり環境の改善により園芸文化一般の普及発展に大きく貢献した功績が認められ、今回の受賞となりました。ご受章の荣誉に輝かれましたことを心からお喜び申し上げます。

・公益財団法人 松下幸之助記念志財団 HP（第 32 回（2024 年）の受賞者）

<https://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/works/flowerprize/win/index.html>

さて、当ニュースレターも発行開始から 4 年目となり、第 13 号まで至りました。今回から編集担当も変わり、新体制でニュースレターの制作を行って参ります。つきましては、次回、第 14 号（6 月刊行予定）について、会員の皆さまのご協力を頂きたく、下記のコーナーへのご投稿をお願いする次第です。

・ **テーマ“困っている雑草”について、意見や技術情報など**

・ **自由投稿：日頃の気づき、主張したいこと、技術・文献紹介等**

・ **所属団体・企業の紹介**

今号またはこれまでの記事についてのコメント、質問なども歓迎します。

ご連絡先：佐治健介（k-saji@bousou-ken.org）

ページ編集：宮井駿（京都大学雑草学研究室学生）